

アジア太平洋肝臓学会シングルトリックカンファレンス大阪 事業成果報告書

大阪公立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学

河田 則文

1.概要

本シンポジウムは、肝臓病の治療を専門とする研究者が一堂に会し、肝臓病および関連領域に関する基礎的および臨床的な面からさまざまな討論を重ね、肝臓病の根治を目指すべく最先端の知識と経験の交流を行い、世界の肝臓病学の発展に貢献すると同時に、本邦における肝臓病学の進歩においても、大きく国民の健康増進に寄与することを目的とし開催されました。今回は、APASL シングルトリックカンファレンスでは初めてのハイブリッド開催となりましたが、「Molecular and Cell Biology of the Liver: Recent Evolution to Clinical Application」をメインテーマに、計 310 名ものご参加を得て、全演者の先生方のご発表と討論をリモートで実施でき、盛会のうちに無事終了いたしました。この度、貴財団から助成金を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。今後も、アジア太平洋肝臓学会シングルトリックカンファレンスをどうぞよろしくお願い致します。

2.実績

(1)

開催日	2021年9月2日(木)～3日(金)
開催場所	ヒルトン大阪(大阪市北区梅田1-8-8、Tel.06-6347-7111)
主催 後援	アジア太平洋肝臓学会シングルトリックカンファレンス大阪 特定非営利活動法人アジア太平洋肝臓学会
参加者総数 と その内訳	参加者総数 310名 (内訳)ハイブリッド形式 会場 56名、オンライン参加 131名、オンデマンド配信参加人数 123名 (日本人、239名、中国、17名、ベトナム、7名、インド、5名、台湾、インドネシア、韓国、UK、フィリピン、各3名、オース

	トラリア、エジプト、イラン、イタリア、パキスタン、ロシア、スペイン、タイ王国、トルコ、各2名)
内容	本シンポジウムは、肝臓病の治療を専門とする研究者が一堂に会し、肝臓病および関連領域に関する基礎的および臨床的な面からさまざまな討論を重ね、肝臓病の根治を目指すべく最先端の知識と経験の交流を行い、世界の肝臓病学の発展に貢献すると同時に、本邦における肝臓病学の進歩においても、大きく国民の健康増進に寄与することを目的とし開催されました。
成果	今回は APASL シングルトピックカンファレンスでは初めてのハイブリッド開催となりましたが、「Molecular and Cell Biology of the Liver: Recent Evolution to Clinical Application」をメインテーマに、計 310 名ものご参加を得て、全演者の先生方のご発表と討論をリモートで実施でき、盛会のうちに無事終了いたしました。

3.成果

本学術集会では、「Molecular and Cellular Biology」をメインテーマに、肝臓を専門とする研究者が一堂に会し、肝臓病および関連領域に関する基礎的および臨床的な面からさまざまな討論を重ね、肝臓病の根治を目指すべく最先端の知識と経験の交流がなされました。今回は、APASL シングルトピックカンファレンスでは初めてのハイブリッド開催となり不安もありましたが、結果的にはオンデマンド配信参加も含め 18 カ国から 310 名が参加しました。

4.課題と展望

この度、貴財団から助成金を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。学会準備も滞りなく進み、開催中も熱い議論が交わされながらも、定刻通り進行し、参加者から高評価を頂きました。ハイブリッド開催の強みを活かすことができた APASL 初めての STC 学会ということで、有益な学会であったと考えております。また、幅広いトピックスの学会プログラムを提供し、本邦の基礎、臨床の高度なレベルを海外に紹介する機会となったことは、本邦における肝臓学の進歩において大きく貢献することができたと確信しております。今後も、アジア太平洋肝臓学会シングルトピックカンファレンスをどうぞよろしく願い致します。

5.参考資料

